

中学校部活動の地域展開（地域移行）について

～「中学校部活動の地域展開（地域移行）」という言葉聞いたことはありますか？～

●中学校部活動の地域展開（地域移行）とは？

これまで学校の教員が中心となって担ってきた部活動の運営や指導を地域のスポーツクラブや文化団体、外部指導者などへ段階的に移行・連携していく取り組みのことです。

単に学校部活動を地域のスポーツクラブや文化団体に移行するのではなく、生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に取り組めるよう、ニーズに応じた多様で豊かな活動を“地域全体で支えていく”という考え方から、現在では「地域展開」という名称が使われています。

国（スポーツ庁および文化庁）では、令和8年度から令和13年度までを「改革実行期間」と位置づけて部活動の地域展開実施を推進しており、八雲町においても検討課題となっています。

国が示す改革期間および取組方針

《改革期間》

令和5年度～7年度
「改革推進期間」



【中間評価】

令和8年度～10年度
「改革実行期間」(前期)

令和11年度～13年度
「改革実行期間」(後期)

(進捗状況等検証)

《取組方針》

休日の部活動 改革実行期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す
※前期（令和8年度～10年度）の間に、確実に休日の地域展開に着手する

平日の部活動 各種課題を解決しつつ、更なる改革を推進
※地域の実情に応じた取り組みを実施する

●なぜ地域展開が必要なの？

～急激な少子化への対応～

少子化の影響により、学校単位でのチーム編成ができなくなったり、存続できない部活動も出てきています。生徒が将来にわたってスポーツや文化芸術活動を継続できる機会を確保していかなければなりません。

～教員の負担軽減～

部活動顧問は、部活動指導に多くの時間を割く必要があるため、授業準備などの時間確保が難しい場合もあります。また、競技経験のない教員が顧問となる場合もあり、その競技を理解することが大きな負担となっています。教員の長時間労働の一因となっている部活動指導に係る負担軽減を考えなければなりません。

～活動機会の充実～

専門性の高い指導者や地域の資源を活用することで、生徒に多様で質の高い活動機会を提供することができます。

●地域展開の推進で中学校部活動はどう変わるの？



(八雲町の中学校部活動はどう変わるの？)

今後、想定される活動形態としては、次のようなことが考えられます。

・学校主体で続ける活動

単独部活動（今と同じ）、複数校合同部活動、拠点校方式（他校の部活動に参加）など

・学校と地域が協力して運営する活動

学校部活動ではあるが、部活動指導員や外部コーチなどによる指導

・地域クラブが主体となる活動

地域クラブ（スポーツ少年団、スポーツ協会、文化芸術団体など）での活動

学校から部活動がなくなるとは限りません。上記の形態が併存することも考えられます。

八雲町がどのような活動形態を目指していくのかについては、今後の検討課題となっています。